

**【異物混入】コーヒーに「汚れ」の異物混入、担当者が誤って廃棄し成分不明**



※写真はイメージです。

日本マクドナルド（東京）は9日、名古屋市東区中川の「マクドナルド山王橋店」で提供されたアイスコーヒーに、機器についていた汚れとみられる異物が混入していたことを明らかにした。アイスコーヒーの専用コンテナの注ぎ口などの清掃が不十分だった可能性があるとして、同社は「お客様に大変不快な思いと、ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます」と陳謝している。

同社によると、異物について調査すべきところを、担当の女性が誤って廃棄したため、成分などは不明だが、コンテナの注ぎ口などについていた汚れが、何らかの要因で剥がれて混入したとみられるという。

同社のマニュアルでは、コンテナは毎日洗浄し、注ぎ口の部品は定期的に清掃することになっている。同社の調査では、同店はマニュアル通りに洗浄していたことが確認できたが、洗浄が不十分だった可能性があるという。同社は同店に対し、機器の洗浄や点検など管理の徹底を指導する。

（引用転載：読売新聞オンライン 2023/8/10 06:30 より）

**清掃箇所や機器ごとに洗浄ルールを実践することは基本です！  
最適な清掃用具を使うことで、清掃効果も効率も向上します！**

上記の事故では、顧客への健康被害の有無までは明らかになっていませんが、このような事故が起こってしまうと、事後対応のために時間や人が割かれるうえ、何より自社や製品のブランドに影を落としてしまう事態につながります。以下は、上記の異物混入事故の内容を元に、衛生管理ブラシを使用した再発防止対策を紹介します。

**原因の推測**

問題となった事象	推測される原因
製造機器に付着していた異物（汚れ）の混入	① 機器の洗浄用に使用していた清掃用具で汚れが十分に除去できていたか？
	② マニュアル通りの手順が十分に運用されていたか？記録はあるか？
	③ 機器を含む店舗の衛生状態は定期的な点検がされていたか？記録はあるか？

**対策案**

衛生管理ブラシを使用した再発防止の観点から、推測される原因①「機器の洗浄用に使用していた清掃用具で汚れが十分に除去できていたか？」について対策を考えてみましょう。

**▼ 清掃箇所（機器）に合った適切な清掃用具を選ぶポイント**

POINT 1：食品接触面に対して**清掃用具は目的にあったものを選択する。**

POINT 2：実際に**汚れが除去できているか、清掃マニュアルに合っているか**を確認する。

<p>▼ 提案する清掃用具 バーキュートプラス ノズルブラシ</p> 	<p>▼ 選択する理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の事故の原因となった「<b>コンテナの注ぎ口</b>」など、<b>細い筒形、もしくは穴の洗浄用に設計、製造されたブラシ</b>です。</li> <li>・ブラシの外径が1.5～8.0mmまであり、さらに1.5～4.0mmまでは0.5mm刻みでサイズ展開があるため、<b>機器や清掃箇所</b>に合わせた<b>サイズが選べ、洗浄効果、効率を向上</b>できる。</li> <li>・<b>ブラシの色は5色あり、異物混入時も目視で発見しやすい。</b></li> </ul>
--	---

（株）バーテックでは、このような事故の予防のため、食品製造業向けのブラシの提案だけでなく、現場の作業から普段の清掃作業で求められている結果を得られているかなどを聞き取り、清掃マニュアルをはじめとする食品製造現場の衛生管理レベルの向上をお手伝いしています。まずは、**弊社営業担当者、またはメールアドレス（is@burrtec.co.jp）**までご相談ください。